

ふで の お 筆ノ尾

～静寂の森で地域を支えた祭祀遺跡～

資料
番号

K8

初版：2025.10.30

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. アクセス



1. おすすめポイント

★そこに居るだけで「心が鎮まる」磐座

「静寂の祈りの場」にぜひ身をおいてみてください

筆者は何ら材料を持ち合わせないため、本磐座を知るきっかけを頂いた八木敏乗氏の書籍（参考文献1，p126）からそのまま引用させて頂きます。

筆ノ尾

倉敷市由加大字筆之尾字古谷

倉敷市児島由加の蓮台寺は児島由加山塊の頂嶺（二六〇^〇）に在つて、その開基は僧行基とも、報恩大師とも伝えられる。

この近隣の山頂周辺には、先土器時代より以降、各期にわたる遺跡の多くを止める。中でも、末長雅雄氏の論文（「備前瑜珈山出土の銅剣」一九五七年）が見え、この銅剣検出の事実は、由加

山周辺の土地が、すでに古代にあつて、精神生活のより所として、文化の包含地でもあつたことと事実を現示しているものといえよう。神座（磐座）は蓮台寺から東へ、玉野市堀ノ内、滝、集落へ通じる道を、五嶺ばかり下り、二十九番札所の堂前から右折して山道を更に五〇〇^〇ばかり行つた谷あいであり、小字を古谷といい、古くより、人になじんだ韻を地名に伝え残す。神座の入口に簡素な丸木の鳥居と、『磐室太神宮』の記名板が建ち、大小の巨石が、重畳とし

た石群の奥に、狭い神座の空間が開けて、小石祠が据え祭られている。

この大小、巨石の石組を見る限りでは、総てが自然態の石ばかりとも思われず、人の手で運ばれ組まれた石もあるように感じられ、両面谷に挟まれた狭いこの地形で、どのようにして巨石を扱い造形したものであろうか。深い森蔽と神威が溢れ漂よう幽玄の神域である。

この遺跡（磐座）の在る位置は由加山頂部の峰々にも近く、銅剣出土地点も指呼の間である。また、東流する二つの谷川は、堀ノ内と木目の地区を結び、この谷を伝つて水田が拓かれ、道が通じ、古代の往來が開かれていったものでもあろう。

この地で五口の銅剣検出が提示したものは早い時代から、この周辺地域一帯には山麓をも含めて、相当数の集落や組織がこぞって、奉じる、神を同じくした広域の、信奉者が対象とした神座であつた模様を示している。



筆ノ尾磐座入口

3-1



3-2



3-3

2020.4.22



3-4



3-5



4-1 南方向

もちろん樹々に隠れて上空から磐座は見えません

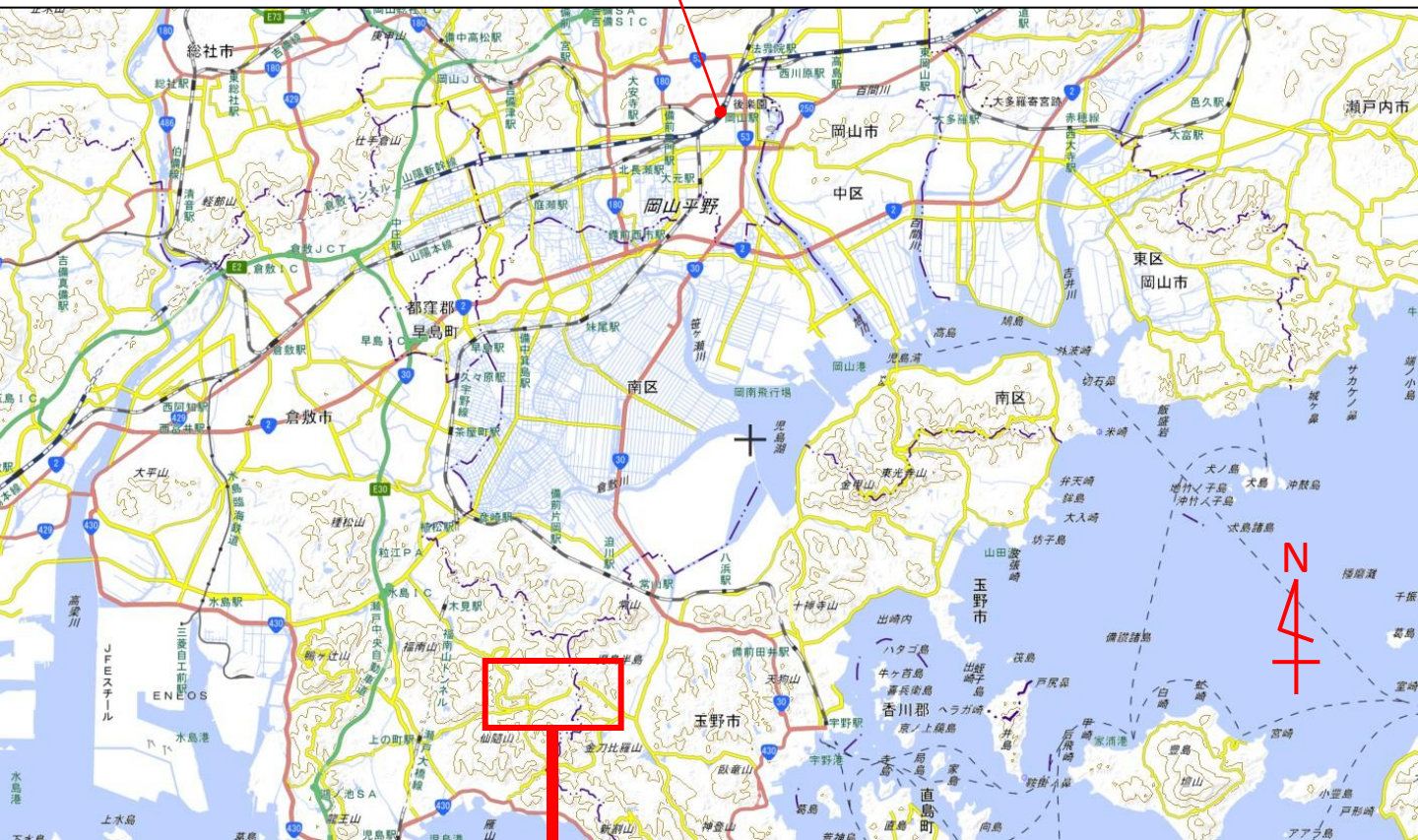


4-2 北東方向

正に「森の中」の磐座です。

5. アクセス

JR岡山駅



5-1

地理院地図に赤で追記



5-2

2頁の八木氏解説文に出てくる
「由加山」などは本図参照ください

地理院地図に赤で追記

次頁

5-4

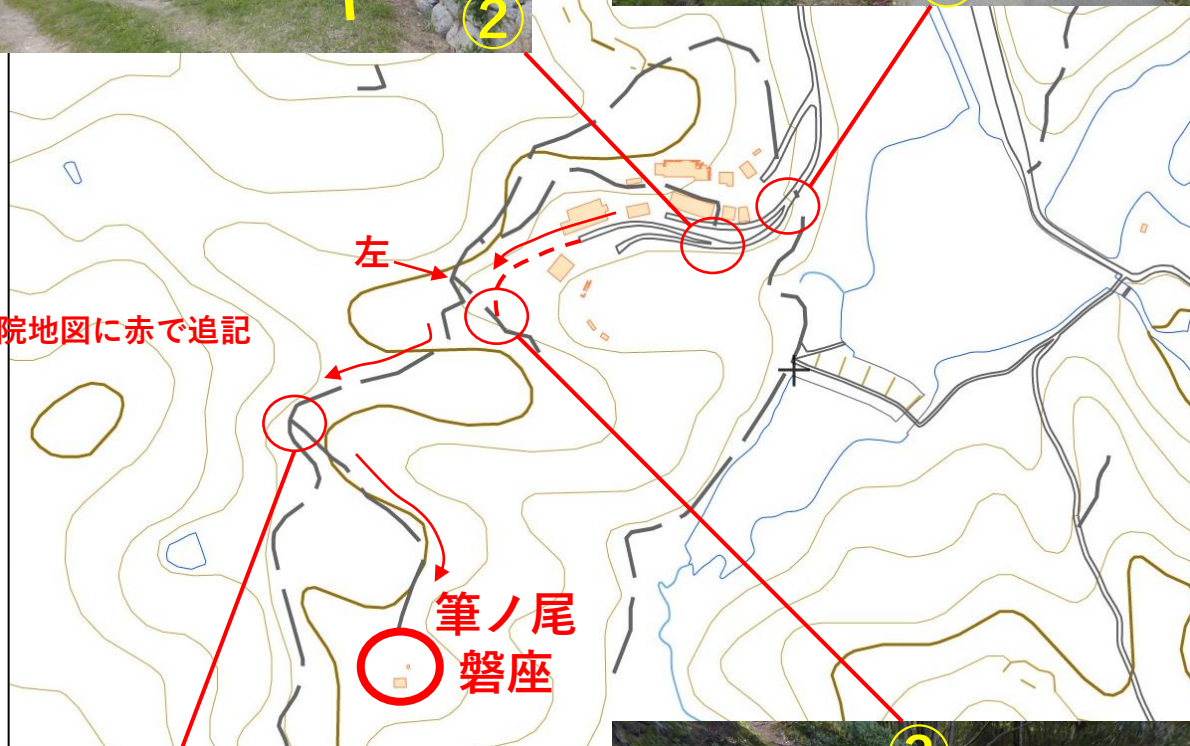


5-3



※地理院地図に赤で追記

5-7



5-6



5-5





5-8

道標に従って右に曲がれば到着です



5-9 筆ノ尾磐座入口

下図 参考文献1、p127より引用



筆ノ尾磐座入り口

5-10

右図のようにかつてはここに
鳥居があったようです

参考文献

- 1) 八木 便乗. 岡山の祭祀遺跡（岡山文庫145）. 日本文教出版, 1990, 173p.